

テーマ ■ 第1部 「“坂の上の雲” を取り巻く人々」 第2部 「NHK大河ドラマ “花の生涯” から “坂の上の雲” まで」

講師 曾我部泰三郎（元お茶の水女子大学附属中学校）
西村与志木（NHKエグゼクティブプロデューサー）
総括 神山 充晴（全放連事務局次長）
司会者 野村 清（元全放連副理事長 中学校） 記録者 田中美枝子（元東京都千代田区立千代田小学校）

第1部 「“坂の上の雲” を取り巻く人々」

講師 曾我部泰三郎

講師は四国愛媛出身です。講師は4年前に「20世紀の平和論者・水野広徳海軍大佐」を出版しました。「坂の上の雲」の著者、司馬遼太郎が取り上げた実在の人物、正岡子規・秋山兄弟の3人も同郷です。そこで同じく松山出身の水野広徳にも触れながら、3人の交流についての話が進みました。

NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」が平成21年の秋から3年間にわたって放送されます。松山市の現在の様子とその発展ぶりや、歴史上の倭寇や村上水軍などの話も語られました。

秋山兄弟の兄・好古と弟・真之はともに軍人で、伊予松山の下級藩士の家に生まれ、日露戦争で活躍しました。正岡子規は、好古の幼馴染で、ともに学問を志して上京し、文学を選びました。明治時代は青雲の志が満ち溢れていました。子規は従軍記者として戦場を訪れ、戦争と文明について再認識します。司馬遼太郎は子規の生き方に関心を持っていました。また、水野広徳は日本海海戦に参加しましたが、後に人道的反戦思想を抱き軍籍を離れて、軍縮・反戦運動に尽力しました。「兵は凶器なり」と言う言葉は反戦・平和の起点になっています。



第2部 「NHK大河ドラマ “花の生涯” から “坂の上の雲” まで」

講師 西村与志木

講師は、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」の制作責任者・エグゼクティブプロデューサーとして多忙です。昨年には克蘭クイン、来年秋から3年間放送されます。90分13作の予定です。

大河ドラマは「篤姫」までの47作について、内容の分析が話されました。戦国物が最も多く、視聴率の高い長寿番組です。

「坂の上の雲」は明治時代に生き抜いた若者たちの生き様を書いた壮大な物語で、多くの日本人の心を揺り動かした長編小説です。しかし、この作品だけは、司馬が映画化を許しませんでした。左右両派からの批判が強かったことが大きな理由です。コンピュータグラフィックスの発達や海外ロケで表現が豊かになりました。内容をチェックする内部の監査機関もできました。

明治時代に山を目指して登りつめた日本でしたが、坂を転がり落ちた先が第二次世界大戦でした。著者が栃木県佐野の部隊で敗戦を迎えようとする時期に、国民を無視した隊長の言葉を聞き、日本の国が情けない国に変わってしまったことを嘆き、この小説を書こうと思ったそうです。小説の原点は坂から転がり落ちて味わった第二次世界大戦にあります。

